

平成27年12月16日

平成26年全国消費実態調査 二人以上の世帯の家計収支及び貯蓄・負債に関する結果 結果の要約

総務省は、我が国における世帯の家計収支、資産などの家計の構造面を総合的に把握する調査として全国消費実態調査を5年ごとに実施。

今回、平成26年9月から11月にかけて実施した同調査の結果のうち、二人以上の世帯の家計収支及び貯蓄・負債について取りまとめた結果を公表。

(次回の公表は、家計資産等に関する結果を平成28年3月に予定。)

<消費支出の状況(1世帯当たり1か月間の支出)>

1 前回(平成21年)と比較して、支出割合が上昇したのは「食料」、「光熱・水道」、「交通・通信」など

・消費支出(平成26年9~11月の1世帯当たり1か月平均)を費目別の構成比で見ると、「食料」(24.7%)、交際費などの「その他の消費支出」(20.3%)、「交通・通信」(15.4%)の割合が高い。(図1)

・費目別の構成比で平成21年と比較すると、「食料」、「光熱・水道」、「交通・通信」などの割合が上昇。一方で、「その他の消費支出」などの割合が低下。(図1)

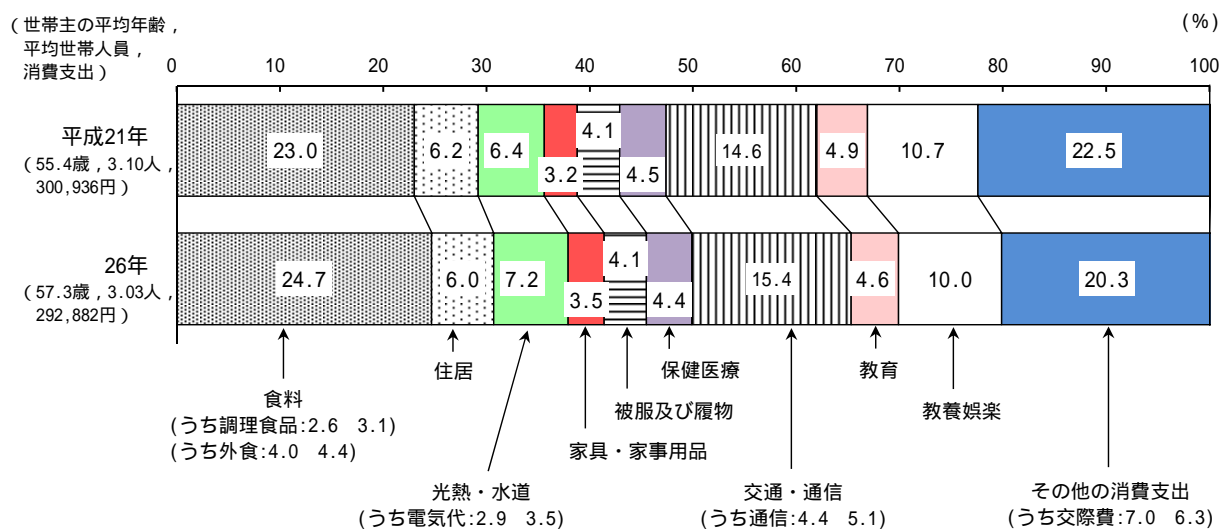
[主な上昇項目]

食料 ……調理食品、外食
光熱・水道 ……電気代
交通・通信 ……通信

[主な低下項目]

その他の消費支出 ……交際費

図1 費目別消費支出の構成比(二人以上の世帯)



< 品目別にみた「電子マネー」による購入の割合 >

2 「電子マネー」を利用した購入割合が高い主な品目は、「バス代」、「鉄道運賃」

- ・「電子マネー」を利用した購入について、品目別に支出金額に占める割合をみると、最も高いのは「バス代」(24.8%)。次いで、「鉄道運賃」(17.7%)、「おにぎり・その他」(8.0%)、「調理パン」(7.0%)、「乳飲料」(6.8%)。(表1)

表1 「電子マネー」による購入割合の高い品目(二人以上の世帯)

品 目	購入割合 (%)	(参考)平成21年
バス代	24.8	8.5
鉄道運賃	17.7	10.4
おにぎり・その他	8.0	2.6
調理パン	7.0	2.4
乳飲料	6.8	2.3

< 品目別にみたネット購入の割合 >

3 「通信販売(インターネット)」を利用した購入割合が高い主な品目は、「航空運賃」、「音楽・映像収録済メディア」

- ・「通信販売(インターネット)」を利用した購入について、品目別に支出金額に占める割合をみると、最も高いのは「航空運賃」(40.3%)。次いで、「音楽・映像収録済メディア」(23.9%)。(表2)

表2 「通信販売(インターネット)」を利用した購入割合の高い品目
(二人以上の世帯)

品 目	購入割合(%)
航空運賃	40.3
音楽・映像収録済メディア	23.9
パソコン関連用品(周辺機器・部品・ソフトなど)	17.4
電気掃除機	14.0
他の教養娯楽用耐久財	13.9
健康保持用摂取品	13.5

子供用乗物、本棚、テレビ台、ヘッドフォンなど

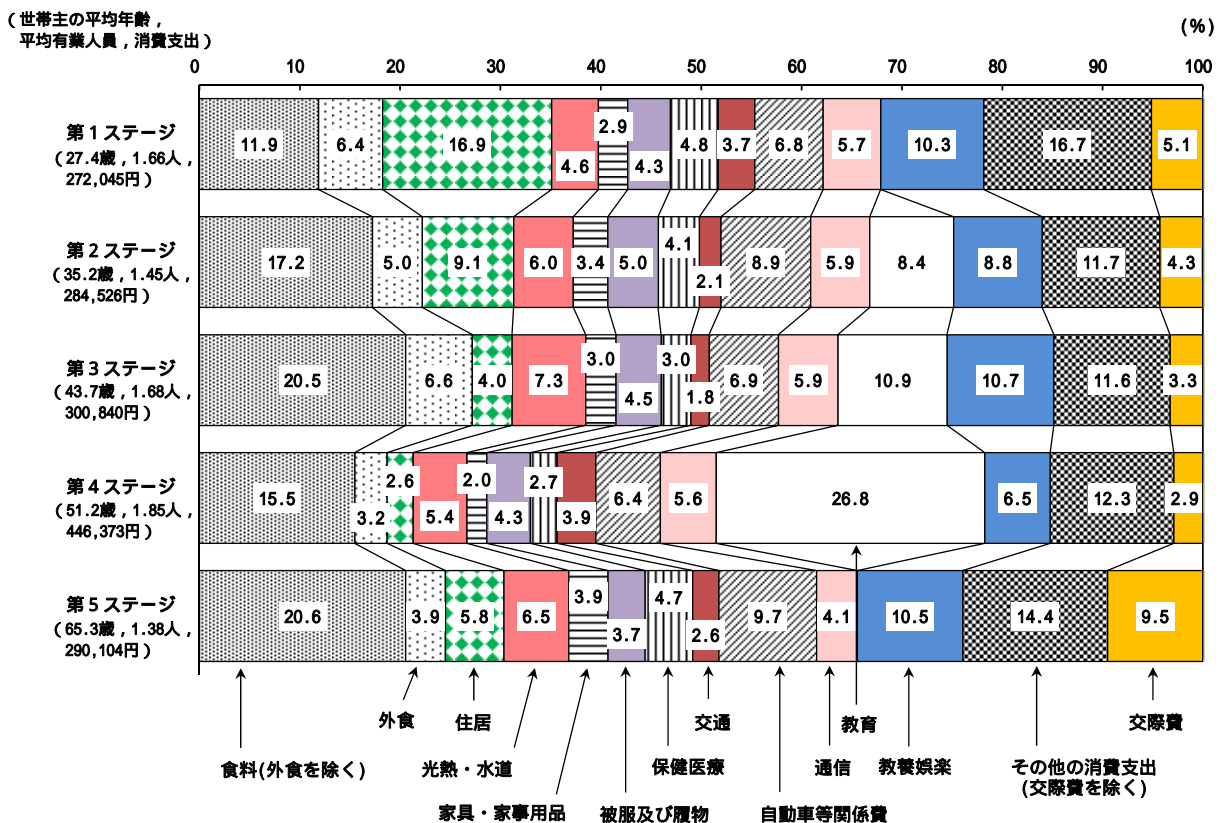
注 全国消費実態調査では、店舗形態(購入先)別に支出金額を調査しているため、「品目別支出金額に占める通信販売(インターネット)の割合」の集計が可能。

< ライフステージ別の消費構造 >

4 ライフステージにより支出割合が大きく変わる費目は、「食料」、「住居」、「教育」など

- ・第1ステージ（結婚後第1子出産前まで）は、「住居」の割合（16.9%）が他のステージと比較して高い。
- ・第2ステージ（第2子の出産後）は、「被服及び履物」の割合（5.0%）が他のステージと比較して高い。また、子供の出生に伴い、「教育」の割合が8.4%を占める。
- ・第3ステージ（子供が義務教育の時期）は、「食料」の割合（20.5%）が高いことから、子供の食事代などへの支出が多くなっているとみられる。
- ・第4ステージ（子供が大学生の時期）は、「教育」の割合（26.8%）が高い。「教育」以外の費目の割合は他のステージと比較して低い。
- ・第5ステージ（子供の独立・夫の定年後）は、「自動車等関係費」（9.7%）、「交際費」（9.5%）などの割合が他のステージと比較して高い。（図2）

図2 ライフステージ別消費支出の費目構成（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）



注1 【ライフステージ（二人以上の世帯のうち勤労者世帯）】

- ここでは、以下のような世帯を仮定した場合のライフステージによる変化を見ている。
- 第1ステージ：「夫婦のみの世帯（夫30歳未満）」 ~ 結婚後第1子出産前まで
 - 第2ステージ：「夫婦と子供が2人の世帯（長子が未就学児）」 ~ 第2子の出産後
 - 第3ステージ：「夫婦と子供が2人の世帯（長子が中学生）」 ~ 子供が義務教育の時期
 - 第4ステージ：「夫婦と子供が2人の世帯（長子が大学生）」 ~ 子供が大学生の時期
 - 第5ステージ：「夫婦のみの世帯（夫60歳以上）」 ~ 子供の独立・夫の定年後

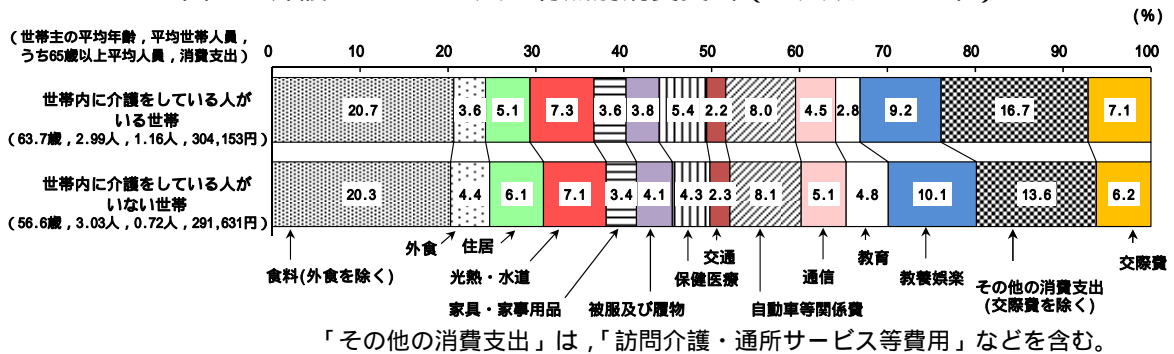
注2 「住居」には、住宅ローンの支払いを含まない。専門学校生，短大・高専生，大学院生も含む。

<介護をしている人（介護者）がいる世帯における消費構造>

5 介護をしている人がいる世帯は、「保健医療」などへの支出割合が相対的に高い

- ・消費支出に占める費目別割合をみると、「介護をしている人がいる世帯」は、「介護をしている人がいない世帯」と比較して、医薬品や診療代を含む「保健医療」、訪問介護・通所サービス等費用を含む「その他の消費支出（交際費を除く）」などへの支出割合が高い。（図3）
- ・なお、「介護をしている人がいる世帯」は、「介護をしている人がいない世帯」と比較して、世帯主の平均年齢が高く、65歳以上平均人員が多い。（図3）

図3 介護をしている人の有無別消費支出（二人以上の世帯）

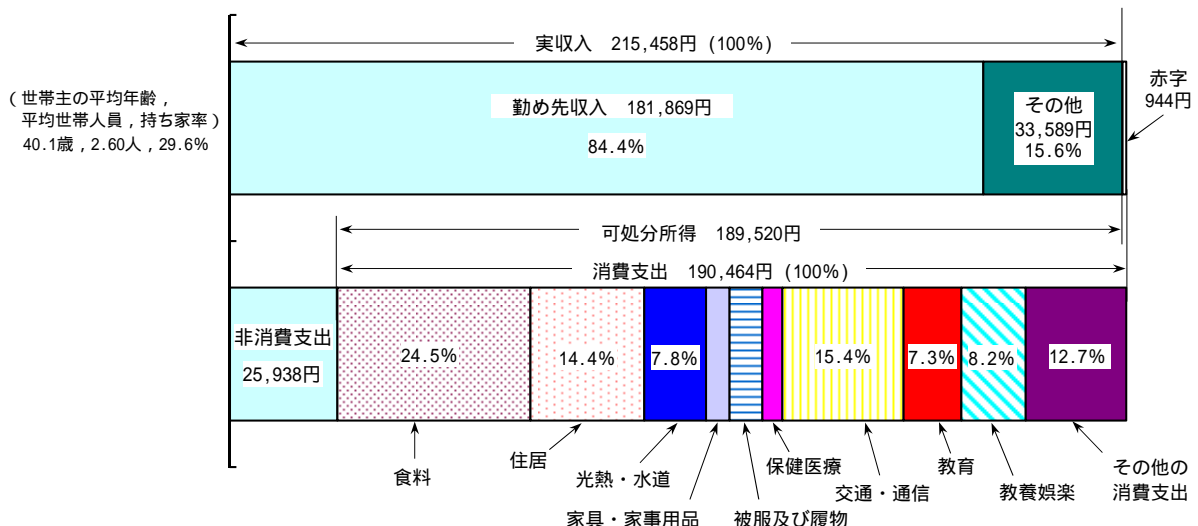


<母子世帯の収支状況（母親と18歳未満の未婚の子供の世帯）>

6 母子世帯は可処分所得と消費支出がほぼ同額

- ・二人以上の世帯のうち勤労者世帯で母子世帯の1世帯当たり1か月平均実収入は215,458円。可処分所得は189,520円で、消費支出(190,464円)よりも944円少ない。（図4）
- ・消費支出の費目別の内訳をみると、「食料」(24.5%)、「交通・通信」(15.4%)、「住居」(14.4%)などへの支出割合が高くなっている。（図4）

図4 母子世帯の実収入及び消費支出

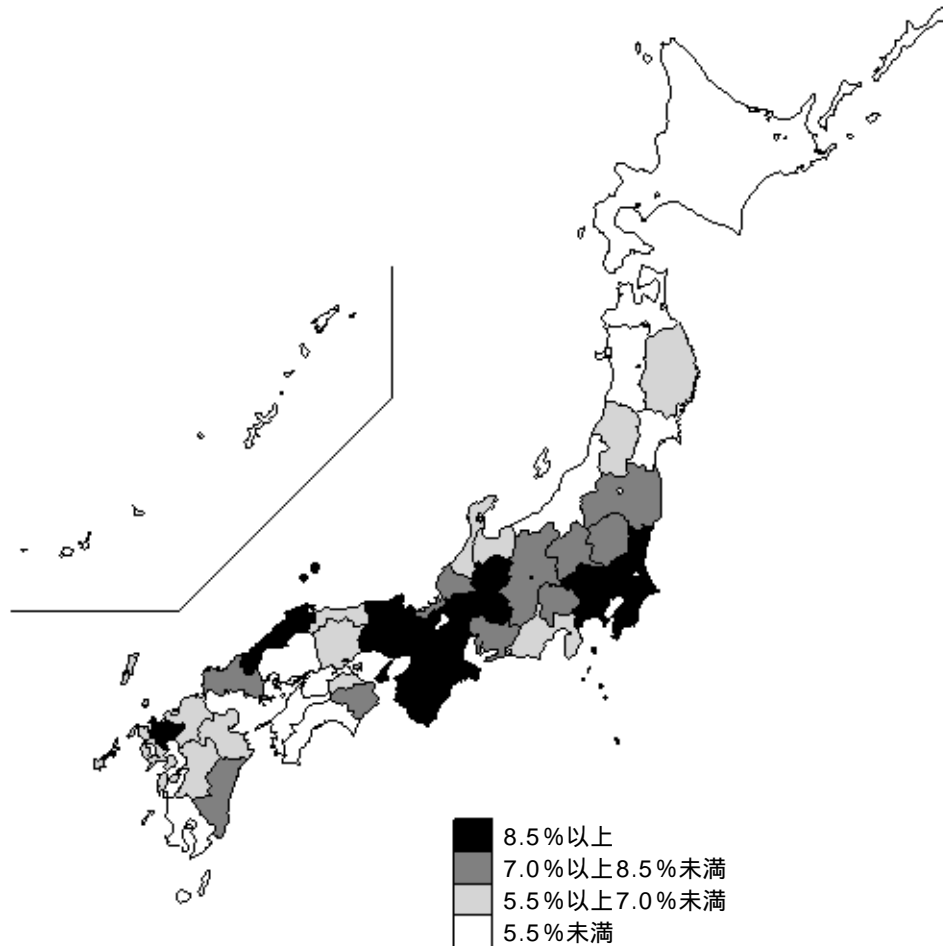


< 「他の都道府県」での購入状況（都道府県別） >

7 「他の都道府県」での購入割合は、おおむね大都市近郊の地域で高い傾向

- ・消費支出の購入地域別割合を都道府県別にみると、「他の都道府県」で購入する割合は、奈良県（15.2%）が最も高く、次いで岐阜県（13.7%）、埼玉県（13.6%）（図5）

図5 都道府県別消費支出の「他の都道府県」での購入割合
（二人以上の世帯）



順位	都道府県	【消費支出】 「他の都道府県」での購入割合 (%)
上位	1 奈良県	15.2
	2 岐阜県	13.7
	3 埼玉県	13.6
	4 佐賀県	12.8
	5 神奈川県	12.5
下位	43 宮城県	4.7
	44 愛媛県	4.5
	45 青森県	3.8
	46 北海道	2.1
	47 沖縄県	2.0

注 ここでは、診察料、通信販売で購入したものなど購入地域を調査していないものは、消費支出から除いている。

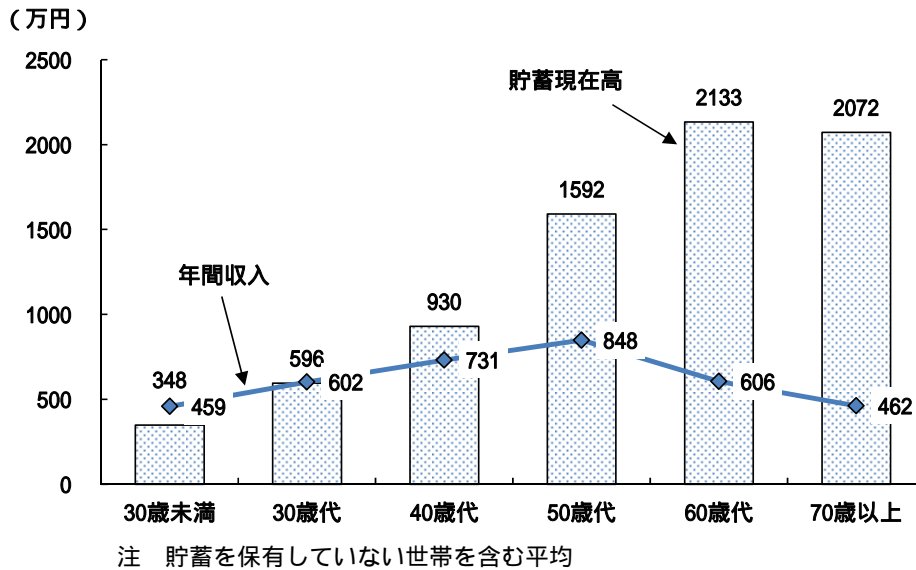
<貯蓄・負債の状況>

8 貯蓄現在高が最も多いのは、世帯主が60歳代の世帯
負債現在高が最も多いのは、世帯主が30歳代の世帯

(1) 貯蓄

- ・ 1世帯当たり貯蓄現在高を世帯主の年齢階級別にみると、60歳代（2133万円）が最も多い。また、60歳代までは年齢階級が高くなるに従って多くなる。（図6）

図6 世帯主の年齢階級別貯蓄現在高及び年間収入（二人以上の世帯）



(2) 負債

- ・ 1世帯当たり負債現在高を世帯主の年齢階級別にみると、30歳代が最も多い。また、負債現在高の多くは「住宅・土地のための負債」。（図7）
- ・ 1世帯当たり持ち家率を世帯主の年齢階級別にみると、60歳代が最も高い。（図7）

図7 世帯主の年齢階級別負債現在高及び持ち家率（二人以上の世帯）

